

2 講演

(1) 常総市における マイ・タイムラインの取組について

茨城県常総市

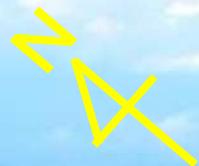


1. 関東・東北豪雨災害状況
2. 市民と行政の取り組み
3. マイ・タイムライン普及啓発
4. マイ・タイムライン普及に向けた
取組状況(県内市町村)

平成27年9月関東・東北豪雨災害

常総市上空

筑波山



常総市

鬼怒川

小貝川

平成27年9月10日06:30に常総市若宮戸で鬼怒川が溢水、
同日 12:50に常総市三坂町で鬼怒川堤防が
約200mにわたって決壊し、市の1/3(約40 km²)が浸水

関東・東北豪雨(平成27年9月)

鬼怒川の堤防決壊により、氾濫流による家屋の倒壊・流失や広範囲かつ長期間の浸水が生じた。

また、避難の遅れも加わり、近年の水害では類を見ないほどの多数の孤立者が発生した。

小貝川決壊(昭和61年8月)

小貝川決壊により浸水家屋は4,500戸に及んだ。

鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する 減災対策協議会を設立(平成28年2月)

鬼怒川小貝川下流域の10市町(平成29年度に3市町加わる)

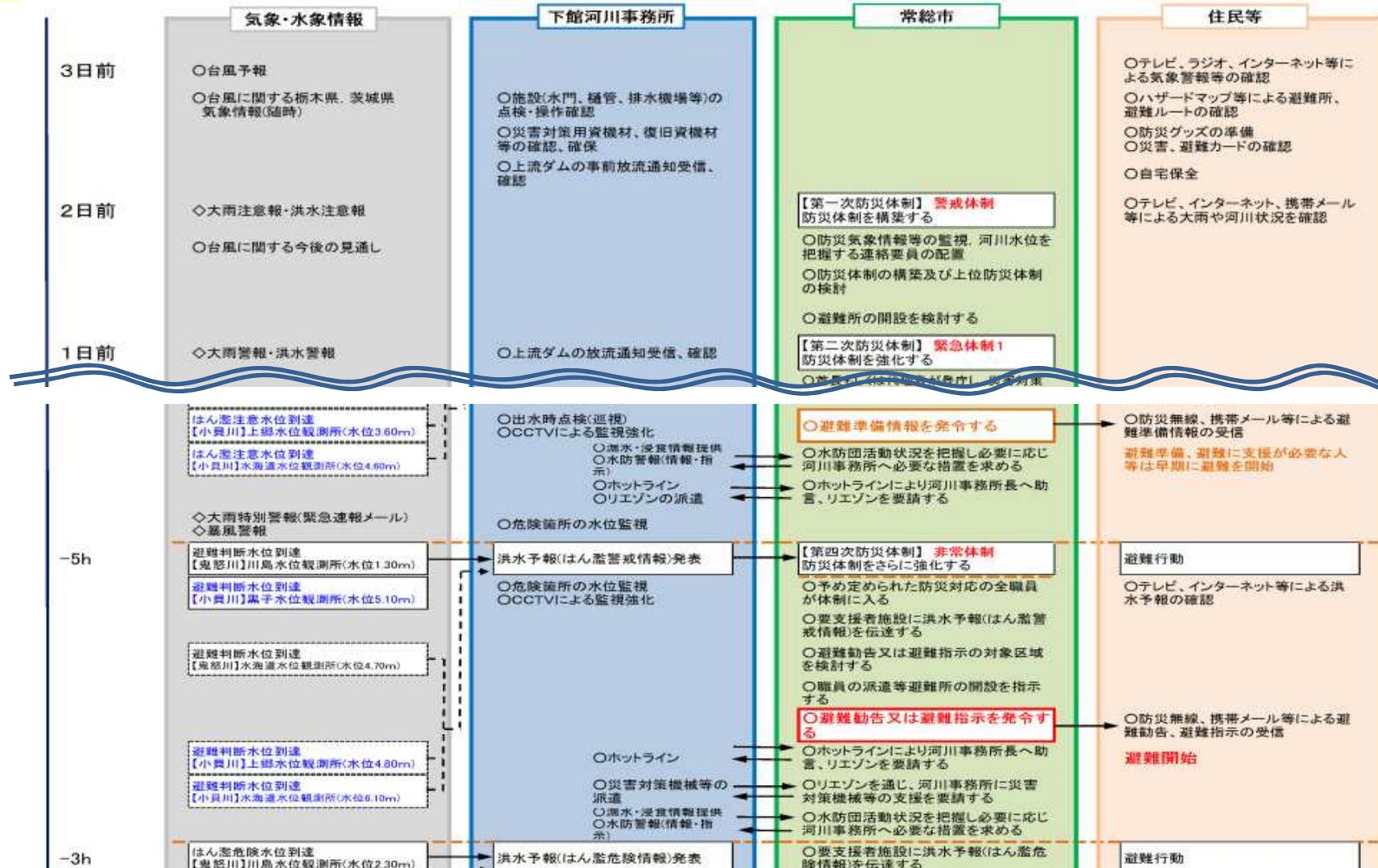
円滑・迅速な避難, 的確な水防活動, 大規模氾濫時の減災対策として
検討を進め, 「鬼怒川・小貝川下流域の取組方針」を決定

市民と行政の取り組み (マイ・タイムライン)



常総市「タイムライン」の策定

鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する減災対策協議会（国・県・10市町で構成）における取組の一つとして、関係機関が連携した**避難勧告・指示等を発令するタイムライン**を策定



マイ・タイムラインのステップ

ステップ1

「自分たちの住んでいる地区の洪水のリスクを知る」

ステップ2

「洪水時に得られる情報を知る/タイムラインの考え方を知る」

ステップ3

「タイムラインの作成」

※住民が水災害に関する知識を得る

常総市のモデル地区におけるマイ・タイムライン検討経緯

○みんなでタイムラインプロジェクトの始動を発表（H28. 10. 24）

■モデル地区代表者への説明会

- ・若宮戸・根新田両地区 自治区長説明会（10月23日）8自治区
- ・根新田地区班長説明会（H28. 11. 3）8班（地区住民 99世帯●名）
- ・若宮戸地区班長説明会（H28. 11. 13）18班（地区住民208世帯●名）

■運営会議（自治区長、学識者、行政機関：市、警察、消防、県、气象台、河川事務所）

- ・第1回運営会議（H28. 11. 13）第1回検討会について議論
- ・第2回運営会議（H29. 1. 22）第2回検討会について議論

■マイ・タイムライン検討会【若宮戸地区】（地区住民、運営会議メンバー）

- ・第1回検討会（H28. 11. 27）玉小学校体育館 住民 71世帯80名参加 Step1
- ・第2回検討会（H29. 2. 5）玉小学校体育館 住民 38世帯41名参加 Step2, 3

■マイ・タイムライン検討会【根新田地区】（地区住民、運営会議メンバー）

- ・第1回検討会（H28. 11. 20）根新田会館 住民 73世帯86名参加 Step1
- ・第2回検討会（H29. 1. 29）常総市役所 住民 51世帯60名参加 Step2
- ・第3回検討会（H29. 2. 19）常総市役所 住民 49世帯59名参加 Step3

マイ・タイムライン ノート

名前 _____

河川名	鬼 怒 川
-----	-------

地区名	
-----	--

自治会名	
------	--

続柄	名 前

家族全員を記入
しましょう。



みんなでタイムラインプロジェクト

目次

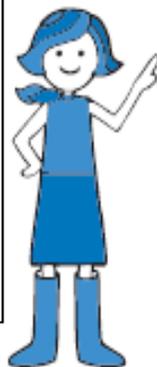
各段階のテーマ	項 目	ページ
【STEP1】 ・自分たちの住んでいる 地区の洪水リスクを知る	はじめに	1
	1.地区の特性	2～3
	2.過去の洪水から学ぶ	4～5
	3.地形の特徴から学ぶ	6～9
	4.最近の雨の降り方と傾向	10～11
【STEP2】 ・洪水時に得られる 情報を知る ・タイムラインの 考え方を 知る	5.「想定最大規模の雨」で 鬼怒川が氾濫したら	12～21
	6.洪水時に得られる情報と読 み 解き方	22～25
	7.タイムラインの考え方	26～29
【STEP3】 ・マイ・タイムラインの作 成	8.洪水時の自らの行動を想定	30～37
	9.マイ・タイムラインの作成	38～40

マイ・タイムラインの 普及啓発



逃げキット

封筒をあけると・・・
下記の教材がはいっています



はじめに確認しましょう！

- ① マイ・タイムライン作成のためのチェックシート
- ② 「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでを知ろう！！(資料1)
- ③ 「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでの備えを考えよう！！(資料2)
- ④ きみだけの「マイ・タイムライン」をつくってみよう！！(シール付き)
- ⑤ みんなでつくろう！マイ・タイムライン
～マイ・タイムラインをつくるためのヒント集～
- ⑥ ご自宅に戻ったらみなおしてみよう

市内小中学校の一斉防災教育・訓練

市内の全小中学校19校で、水害時の各人の避難行動計画（マイ・タイムライン）作成、避難所運営、中学・保育園合同避難訓練等を実施し、防災意識を向上

中学校用のマイ・タイムライン作成



小学校用のマイ・タイムライン作成



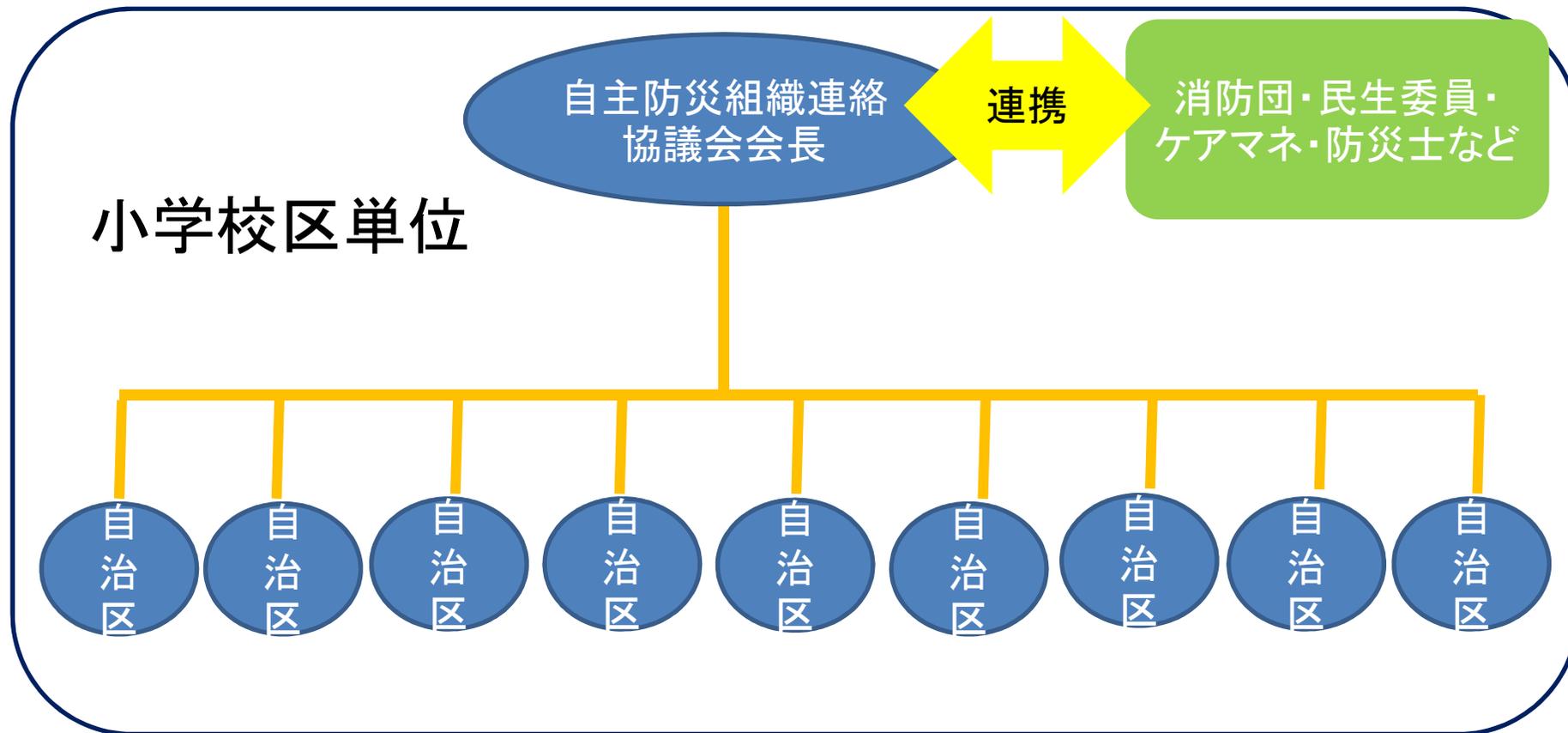
中学校での危険個所の確認(DIG)



中学校と保育園の合同避難訓練



常総市が目指す自主防災組織とは？



217自治区

※すでに連合体で結成している組織は、現体制で問題ありません。



「常総市における在留外国人を対象としたマイ・タイムラインの普及」に関する試行について

背景と目的

常総市の外国人人数はおよそ5千名ほど、茨城県内でも非常に多い中、関東・東北豪雨においても日本人在住者と同様に多くの方が被災した。

洪水リスクが高い市町の在日外国人に対し、水防災意識の向上を目的に、マイ・タイムラインの普及を目指している。

その一環として、在留外国人の割合が比較的高い常総市において、在留外国人を対象とし、以下の試行を目的に講習会を開催することを提案。

○試作品「逃げキッド外国版」の教材の有効性の確認

○講習会の開催方法の確認(講師案の試行など)

講習会参加者

○常総市内の在留外国人

- 試行として、10名程度を希望
- ・ブラジル人に絞る必要はない

実施時期

○参加者の希望を優先して実施

会場

○常総市内の会議室などを借用希望

講習時間

○90分を想定

講習会講師

	案	当社推奨
1案	NPO commons	◎ 普段から在留外国人をサポート
2案	FRICS職員	○ マイ・タイムライン講習会の経験多数

※NPO commonsの場合は、事前にFRICSからレクチャーを実施

使用教材

○試作品の逃げキッド外国版(3ヶ国語)

①やさしい日本語、②英語、③ポルトガル語

※別途PDF参照

○常総市ハザードマップ(多言語版)

講習会方法案

○講師は、やさしい日本語の逃げキッドを使用して、講習を実施

○参加者には、使用教材①、②、③を机に用意し、ご自身の日本語の習熟度により、教材を選択して、使用していただく。

○参加者2名～3名につき、FRICS職員がサポート予定
(市役所職員にもご協力願いたい)

○講習会は、対面式を希望

○可能であれば、スクール形式ではなく、ワークショップ形式を希望

講習会スケジュール案

時間	概要	担当
3分	開会挨拶	
10分	常総市の多言語版ハザードマップの説明	市/講師
40分	マイ・タイムライン作成(前半)	講師
5分	休憩	
25分	マイ・タイムライン作成(後半)	講師
5分	アンケート実施	FRICS
2分	閉会挨拶	

計90分

デジタル マイ・タイムライン ワークショップ



出席者

国土交通省下館河川事務所(講和:近年の洪水被害と洪水予報について)

YAHOO(デジタルマイタイムラインについて)

三妻地区自主防災連絡協議会(鬼怒川決壊付近地区)

筑波大学教授 川島宏一(コーディネーター)

デジタル マイ・タイムライン ワークショップ



<第1部>

①ワークショップに向けた事前説明

②IDの取得と登録 操作説明

<第2部>

①ワークショップの趣旨説明

②ワークショップ

マイ・タイムライン普及に向けた 取組状況(県内市町村)



作成講習会の開催

・浸水想定区域のない2市を除き、県内42市町村のうち、約8割はマイ・タイムライン作成講習会を実施している。

残り2割は年度内の開催を予定、または今後開催する意向があり全市町村がマイ・タイムラインの普及に前向きである。

・講習会の開催については、約4割が防災士などの連携により開催している。(令和3年10月現在)

作成講習会の開催実績

・平成29年度	3, 297名
・平成30年度	5, 105名
・平成31(R1)年度	8, 433名
・令和2年度	4, 092名

※ コロナ禍での開催の減少